

分 野 (2) 気管支ぜん息・COPD患者の健康回復に関する調査研究

研 究 課 題 名 : 呼吸リハビリテーションの実践及び客観的評価手法

申 請 課 題 名 : 呼吸リハビリテーションの実践及び客観的手法に関する研究

調査研究代表者氏名: 千 住 秀 明

評価コメント

- ・基幹病院の策定により呼吸リハビリテーションが公害認定患者(COPD)に及ぼす改善を複数地区で検証できたのは有意義。
- ・COPD検診の普及と地域病診連携システムは重要な課題である。
- ・COPDの病診連携システムの、有病率の調査と公害認定患者におけるうつ症状有症率を検討している。
- ・推進にあたって、すでに達成できない困難性があると思うが、地道に研究が進められている。
- ・旧公害指定地区の医療機関の紹介とそこで行われている呼吸リハビリテーション研修会を利用して、理論的展開を主とした結果が示されているのみで、当初のテーマである呼吸リハビリテーションの実践、客観的手法は、ほとんど結果が示されておらず、残念である。
- ・COPDの患者に呼吸リハビリテーションを実施したならば、そのアウトカムを検証することが重要である。
- ・呼吸リハビリテーションに関して色々と努力されているが現状でリハビリテーションの実践を推進されることに意義があるのか疑問なしとしない。
- ・倉敷市COPD健診での非喫煙者の高い有病率に関しては、ぜひその原因・病態の特異性等について、検討が必要である。
- ・公害認定患者におけるうつ病の発症率がコントロール地区に比較して高率であることは従来ほとんど知られていないので今後の検討課題となる。
- ・従来行われてきたことの更なる事業展開を行っているが、この研究事業の一環としてどのようにしてオピニオンリーダーを育成して行くかも検討してほしい。